

家政系研究紀要50号発行にあたって(家政系研究紀要第50号発行記念祝辞)

著者名(日)	波津 博明
雑誌名	大妻女子大学家政系研究紀要
巻	50
ページ	2
発行年	2014-03-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1114/00005988/

家政系研究紀要 50 号発行にあたって

家政学部長 波 津 博 明

紀要 50 号、おめでとうございます。

今年は、家政学会機関誌『靖淵』が、3 月発行の 56 号をもって誌面を一新しました。

それを期に、1958 年の創刊以来の『靖淵』の歩みを振り返ったのですが、今年は、かつてはいわば姉妹誌のような存在だった 2 誌の歴史を考える年になりました。

大妻コタカ先生は、『靖淵』創刊号で、『靖淵』を『紀要』に次ぐ「家政学一般を対象とした研究機関誌」と位置付けておられます。確かに、『靖淵』にはその後かなりの期間、主に研究論文を掲載しており、いわば「第 2 の紀要」、妹のような性格もありました。

姉にあたる『紀要』の創刊は、『靖淵』に 3 年先立つ 1955 年。誌名は『大妻女子大学紀要』でした。『紀要』創刊当時、学部も短大も家政系しかなく、とくに「家政系」を謳う必要はなかったわけです。1970 年に出た 6 号から、文学部誕生 (1967 年) を踏まえて、『紀要』の後に小さく「家政系」がつけました。

創刊から 58 年、改名から 43 年。『靖淵』は徐々に研究誌的性格を失っていき、『紀要』は、大妻家政系の研究活動唯一最大の媒体として、大きな役割を果たしてきました。

『紀要』は、教員にとって研究発表の場です。しかし同時に、教員、助手が、専門領域を異にする同僚の論文に触れることで、それぞれの分野における最新の知見の一端を知るとともに、大妻家政系の全体像のイメージをジグソーパズルのピースをはめ込むように、形成することもできる、そんな場でもあります。これは専門に分化した学会誌などには期待できない機能でしょう。これが、大妻に来て 7 年以上、恥ずかしながら、いまだ『紀要』に 1 本の論文も書いていない私にとって、最大の活用法なのです。次回は、あいさつ文ではなく、論文の著者として登場したいと思います。